

圓光大学、韓国研究財団の人文社会研究所支援事業に選定（『国際ニュース』2021.09.14）

『良齋集』の正本化及び DB 構築事業実施



（益山=国際ニュース）イ・ジョンゴン記者=

圓光大学(学長 朴孟洙)は、教育部が支援し、韓国研究財団が運営する「2021 年韓国研究財団人文社会研究所支援事業」に最終選定された。

今回の選定は、圓光大学漢文翻訳研究所(所長 イ・ヨンガン)が遂行する「良齋集の正本化と DB 構築」で、9月から2027年8月まで6年間計21億ウォン規模の事業費を支援される。

研究責任者のチョン・ギョンフン(写真)教授は「良齋(1841-1922)は湖南を代表する象徴的な意味を持つ朝鮮の最後の儒学者だ」とし、「この事業は彼の文集を正本化する研究」と明らかにした。

（写真=圓光大学）チョン・ギョンフン教授



特に、良齋 田愚の文集は、既存の公開された文集のほか、慕雲文庫(忠南大学)と研究責任者の個人所蔵本をはじめ、様々な形で出版された文集が存在している。

また、今回の研究は既存の公開された5種に及ぶ膨大な量の田愚文集資料である龍洞本と晋州本、華島手定本、忠南大学所蔵本、白山雑著・風雅・止説など、研究責任者が所蔵している原本を新たに追加し、新しい体制の『正本良齋集』を作る作業である。

漢文翻訳研究所長のイ・イガン教授は「田愚の学問的位置と影響力、湖南地域と韓国儒学史における田愚の地位を考慮すると、公開されていない田愚の文集を正本化する作業は、田愚研究の画期的な転換点になるだろう」とし、「事業成果物を専門研究者と一般人に提供することで、今後、湖南学及び韓国学の地位を確立するきっかけが設けられると期待している」と述べた。

（写真=圓光大学）良齋 田愚文集資料

一方、圓光大学は韓中関係研院のHK+事業(7年/総額105億ウォン規模)と心の人文科学研究所HK+2類型(6年/総額19億8千万ウォン規模)事業、圓仏教思想研究院の人文社会研究所事業(6年/総15億6千万ウォン規模)などとともに、今回の人文社会研究所支援事業選定を通じて優れた人文科学研究能力を認められ、今後も人文科学の力量を活用した融合分野の発展のために持続的に努力していく計画だ。